

野村不動産札幌ビル

札幌駅に誕生した最先端のオフィスビル

通勤、通学者はもとより、全国各地から訪れる観光客を含めると、一日平均二十五万人もの人々が行き交う北の玄関口「札幌駅」。

なかでも、昭和六十三年の鉄道高架事業（函館本線）の完成をきっかけとして再開発事業が進展した北口エリアは、札幌第一合同庁舎を筆頭に、札幌エルプラザや8・3スクエアなど数多くのオフィスビルが隣接する、道内屈指のビジネス街です。

近年はIT関連企業が集積し、「サツポロパレー」の名称でも広く知られるようになったこの地区に、昨年夏、新しいオフィスビルが完成しました。

野村不動産札幌ビルは地下一階地上十階建て。アルミパネルとガラスカーテンウォールの軽快な外観と、天井高七・二メートルの開放的なメインエントランスが、オフィスビルの建ち並ぶ北口周辺の中でもひと際強い存在感を放ちます。

当ビルのコンセプトは「Quick Access & Hi-spec」。JR札

札幌、市営地下鉄南北線および東豊線さつぽろ駅から徒歩二分という絶好のロケーションに加え、ハイスペックな機能や設備を完備し、ワンランク上のオフィス環境を実現しました。

二階から十階までを占める事務室には、照明や各種配線、間仕切りの自由度が高いグリッドシステム天井と、OAR（H1100mm、タイルカーペット貼り）を採用。多様なビジネス形態やスタッフの規模、将来の設備増加などに応じて、フレキシブルなオフィスレイアウトが可能です。

また、天井高は二・八メートル開放感がありながら、机上平均照度は七百lxを確保。さらに外光や外気の影響を受けやすい窓側には、ベリメーター専用空調機を設置。ガラスもLow E ガラスを採用し、環境負荷に留意しています。

災害対策としては、道内では希少な高い耐震性能を誇る免震構造を採用。建物と地盤を地震装置で絶縁することで、地震の揺れを建物に伝わりにくくし、地

SPパークで余裕のある収納台数を確保

震時の水平動に対する極めて高い安全性を実現しました。

電気系統についても、本線と予備電源線の電力を異なる変電所から供給する異系統二回線受電方式を採用しており、もしもの送電事故が起きた際にも自動的に予備電源線に切り替わり、電源が供給され続けます。

札幌の新しい顔として整備が進む札幌駅北口地区。野村不動産札幌ビルの誕生により、良好なオフィスエリアとして、これまで以上に注目が集まっています。

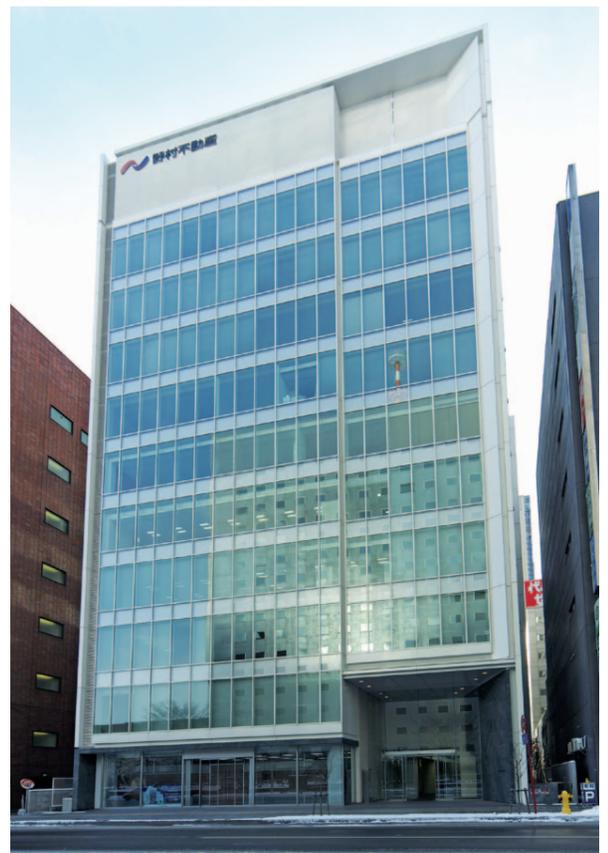
最先端のオフィスビルにふさわしいパークینگ設備として、野村不動産札幌ビルに選ばれたのが、日精の多層循環箱型方式「SPパーク」です。採用のポイントとなったのは、最大で六層まで対応で

きる、多層式の中で最も空間効率に優れた構造でした。

地下一階のスペースに二基のSPパークを導入することで、合計六十四台の収納（そのうちハイルーフ車は二十六台）を実現。札幌駅前に立地する施設としては余裕のある収納台数を確保することに成功しました。

運営管理にあたっては、専門のサービススタッフが配置。運転が苦手な人でも安心して入出庫が行える、丁寧かつスピーディーな対応が、利用者から高い評価を得ています。

また、こちらの駐車スペースは、駅から徒歩二・八分という立地の良さを活かし、ビルの入居者以外も利用できる有料駐車場として運営。週末や休日には、ショッピングや観光の目的で札幌駅を訪れる多くの人々が利用するなど、日精が誇る最新のパークینگシステムは、地域の活性化にも大いに貢献しています。



野村不動産札幌ビル外観



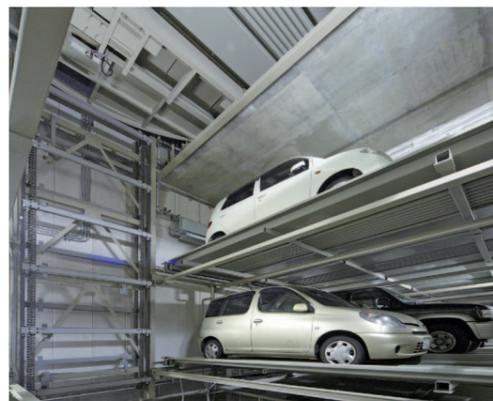
南側通用口に隣接した乗入口

【建築概要・規模】

- 【建築主】 野村不動産(株)
- 【敷地面積】 1,275.6㎡
- 【延床面積】 10,006.8㎡
- 【構造規模】 地上10階、地下1階
- 【設計・監理】 野村不動産一級建築士事務所
- 【施工】 戸田建設(株)

【駐車設備概要】

- 機 種 / SPパーク(多層循環箱型方式) 2基
- 型 式 / SPLS3HT-38、SPLSRHT-26
- 収容台数 / 大型乗用車38台 ハイルーフ車26台
- 合計64台



端部乗込方式のリフト位置と循環部



乗入口スペースのレイアウト



入出庫時にはサービススタッフがナビゲーション

